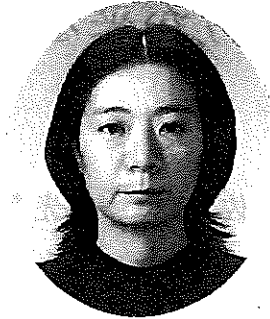


## 第10回木材保存技術奨励賞



藤本いずみ (住友化学工業株式会社)

神戸大学理学部生物学科卒。住友化学工業株式会社に入社後、生物科学研究所(現・農業化学品研究所)にて殺虫剤のスクリーニング研究に従事。昭和63年防疫薬事業部(現・生活環境事業部)開発部へ異動、木材保存分野を中心として家庭防疫薬全般の開発業務に従事。平成6年農業化学品研究所へ異動、木材保存分野での商品開発普及業務に従事、現在に至る。

### 業績概要

住友化学の防蟻剤分野参入はそれほど古くはなく、昭和63年上市したカレートMC及びカレート油剤が初めての商品であり、小職の木材保存分野でのキャリアはこれらの普及活動とともに始まったと言えよう。その後、ザオールFL及びザオール油剤、バクトップMC、ホルサー乳剤、ホルサーEW及びホルサー油剤の開発に携わり、上市後は普及活動に注力した。

防虫剤分野においては、接着剤混入用剤であるランバートMCの普及及びネオランバートMCの実用化検討に携わった。

### 今後の取り組み

住友化学の木材保存分野での商品開発は、原体の特性を生かして製剤化することを基本コンセプトとしており、中でもMC(マイクロカプセル)製剤は最も誇れる技術であろう。弊社のMC製剤は、作用性がよく知られた有効成分を用いているが、製剤としての挙動については不明な点が多い。今後もさらに優れたMC製剤を開発していく上でも、作用性を解明していくつもりである。

また、シロアリ自身は薬剤に対して感受性が高く“弱い虫”であるにもかかわらず、生息場面においてはその生態故に難防除となっている。社会性昆虫であるシロアリの生態を理解し、それを利用した商品開発が必要であろう。

さらに、化学物質を扱う業界の状況がますます厳しくなることを踏まえ、作業者や居住者への安全性、環境への配慮を最重点とし(場合によってはレスケミカルもやむを得ない)、商品開発を行う必要がある。

### 主要な成果報告

- 1) 藤本いずみ：“新規土壌処理剤バクトップMCについて” しろあり 第106号 平成8年10月
- 2) 藤本いずみ、久保木雅子、村上美和、手嶋勇人：“バクトップMCの性能評価(その2) シロアリに対する効果” 日本環境動物昆虫学会第8回年次大会 平成8年11月
- 3) 村上美和、増田喜代隆、藤本いずみ、大坪敏朗：“バクトップMCの性能評価(その1)” 日本環境動物昆虫学会 第8回年次大会 平成8年11月
- 4) 藤本いずみ、大坪敏朗、手嶋勇人：“防蟻剤バクトップMCの開発” 木材保存協会第13回年次大会 平成9年5月
- 5) 藤本いずみ、手嶋勇人：“防蟻剤ホルサー乳剤及びEWの効果” 木材保存協会第14回年次大会 平成10年5月
- 6) 藤本いずみ、手嶋勇人：“防蟻剤ホルサー乳剤及びEWの効果” 木材保存 25(3)(1999)